

トカラ列島宝島における冬期の鳥類調査

山元 幸夫*

An Ecological Survey of Birds in Winter on Takarajima in the Tokara Islands,
Kagoshima prefecture

Yukio YAMAMOTO 129° 130° 131°

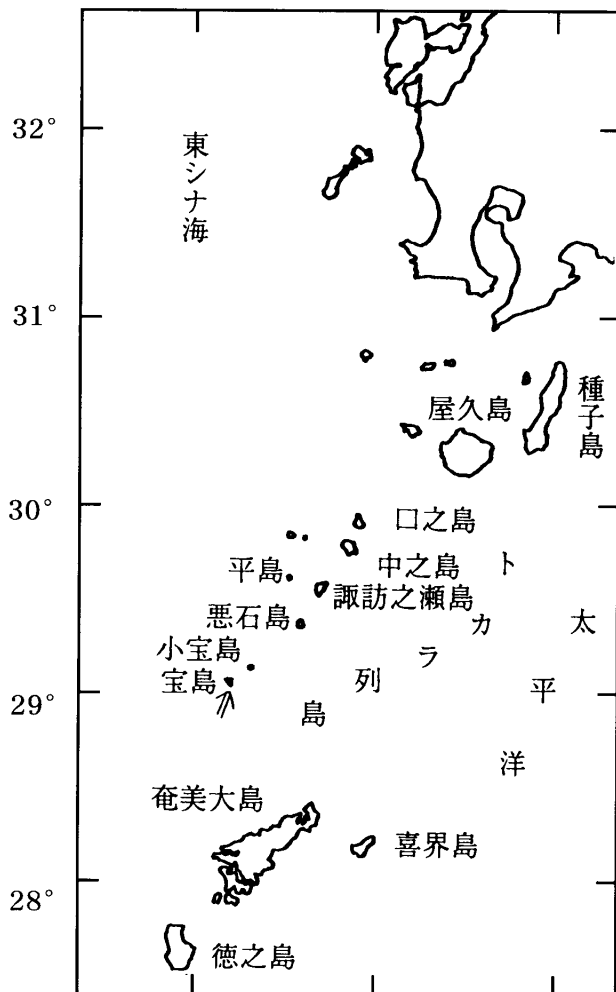
はじめに

宝島はトカラ列島の南端部に位置している。宝島のすぐ北東に位置する小宝島と悪石島との間のトカラ構造海峡には、動物地理区の境界線（渡瀬線）が引かれ、この一帯は古くから生物相の移行帯として関心を持たれている地域である。しかし、宝島の鳥類については調査があまりなされておらず、特に冬期における記録は非常に少ない。この時期の記録を蓄積することは、トカラ列島の鳥類相を明らかにする上で重要であると思われる。

筆者は鹿児島県立博物館が継続的に実施しているトカラ列島の自然調査・資料収集の一環として、1999年12月と2000年1月に宝島で鳥類の分布調査を行ったのでその結果を報告したい。

1 調査地の概要と調査方法

宝島は北緯29度08分、東経129度13分に位置する周囲12.1km、面積5.94km²の有人島である（図一）。島のほぼ中央には最高峰イマキラ岳（291.9m）を中心に北西-南東方向に山地が延びている。山地の大部分はビロウの混じるタブ林によって被われているが、稜線付近や急傾斜地にはリュウキュウチク林がみられる。また、荒木崎一帯にはマルバニッケイやハマヒサカキを主とした風衝性低木林が発達し、一部は開墾され牧場や裸地となっている。平地は山地を取り巻くようにして発達している海岸段丘面上にみられる。ここには集落があり、その周辺は水田、畑、果樹園などとして利用されている。集落内にはアコウやガジュマルなどからなる屋敷林が点在している。海岸部には、島全体を取り囲むように隆起珊瑚礁からなる岩礁帯や砂地が発達しており、砂地にはコウライシバやグンバイヒルガオなどの背丈の低い植物が生えている。今回の調査では、自動車や徒歩で島内を移動しながら出現したすべての種を記録し、厳密なライ



図一 宝島位置図

* 〒 892-0853 : 鹿児島市城山町 1-1 鹿児島県立博物館

ンセンサスは行わなかった。種の確認には、双眼鏡(10倍)と望遠鏡(20 - 45倍)を用い、種によっては写真撮影も行った。主な調査地点は図-2に示した。

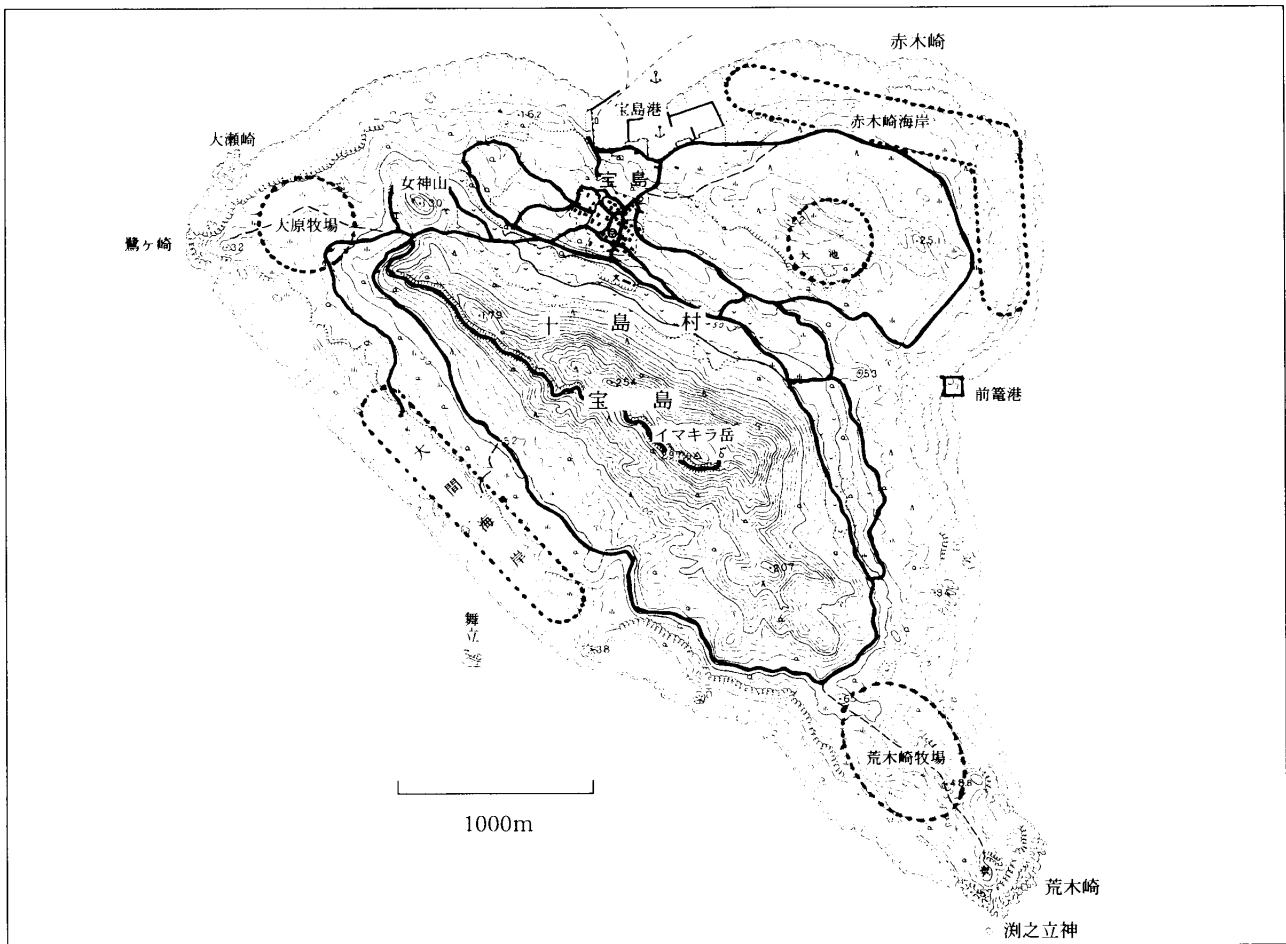


図-2 調査地点

2 調査結果と考察

(1) 出現種

調査は1999年12月15日～18日(4日間)と2000年1月12日～15日(4日間)に行なった。調査期間中はいずれも北西風が強く、曇り日で時々雨が降ったり日が射したりする不順な天候であった。出現種は12月の調査で16科33種、1月の調査で18科36種、通算して19科45種を記録した。これらの出現種および場所、個体数(最も多く出現した日の羽数)等について以下に示した。

カイツブリ科 Family Podicipedidae

カンムリカイツブリ *Podiceps cristatus* (写真1)

1月: 海水浴場や赤木崎周辺のリーフ(1)

ウ科 Family Phalacrocoracidae

ウミウ *Phalacrocorax capillatus*

1月：大間海岸（1），赤木崎海岸（1）

サギ科 Family Ardeidae

クロサギ *Egretta sacra*

12月：前籠港（1） 1月：赤木崎海岸（2）

アオサギ *Ardea cinerea*

1月：集落近くの農道に、1～2日前に死亡したと思われる落鳥（1）

カモ科 Family Anatidae

カルガモ *Anas poecilorhyncha*

12月：集落上空（1）

ホシハジロ *Aythya ferina* （写真2）

1月：赤木崎海岸の海水浴場（1）

タカ科 Family Accipitridae

ミサゴ *Pandion haliaetus*

12月，1月：赤木崎海岸，荒木崎，大瀬崎，宝島港などで数羽見られた。

トビ *Milvus migrans*

1月：宝島港（1）

ハイタカ *Accipiter nisus*

12月：女神山近辺林道（1）

ノスリ *Buteo buteo* （写真3）

1月：荒木崎牧場（1）

サシバ *Butastur indicus* （写真4）

12月，1月：耕作地周辺，大原牧場，荒木崎牧場，山林などでよく見られた。

ハヤブサ科 Family Falconidae

ハヤブサ *Falco peregrinus*

12月：荒木崎灯台（1）

チョウゲンボウ *Falco tinnunculus*

12月：大原牧場（1），ヘリポート周辺（1） 1月：大原牧場（1），荒木崎牧場（1），ヘリポート周辺（1）

チドリ科 Family Charadriidae

シロチドリ *Charadrius alexandrinus* （写真5）

12月，1月：赤木崎海岸でよくみられ（20+），メダイチドリ，ムナグロ，キョウジョシギ，ハマシギと群れをなしていた。

メダイチドリ *Charadrius mongolus*

12月：赤木崎海岸（10+） 1月：赤木崎海岸（10+）

ムナグロ *Pluvialis fulva* （写真6）

12月：赤木崎海岸（8） 1月：赤木崎海岸（5）

タゲリ *Vanellus vanellus* (写真7)

12月：赤木崎海岸の草地(1)

シギ科 Family Scolopacidae

キョウジョシギ *Arenaria interpres*

12月：赤木崎海岸(3) 1月：赤木崎海岸(3)

ハマシギ *Calidris alpina*

1月：赤木崎海岸(5)

イソシギ *Actitis hypoleucos*

1月：赤木崎海岸(1)

ヤマシギ *Scolopax rusticola*

12月：女神山林道(1)

ハト科 Family Columbidae

カラスバト *Columba janthina*

12月：女神山林道(1)

キジバト *Streptopelia orientalis*

12月：集落近くの農道(2), 女神山林道(1) 1月：イマキラ岳林道(2)

ヒバリ科 Family Alaudidae

ヒバリ *Alauda arvensis*

12月：赤木崎海岸の草地(13) 1月：赤木崎海岸の草地(1)

セキレイ科 Family Motacillidae

ハクセキレイ *Motacilla alba*

12月, 1月：集落内, 牧場, 海岸部などで普通に見られた。

マジジロタヒバリ *Anthus novaeseelandiae* (写真8)

12月：赤木崎海岸の草地(6), 大原牧場(5), 荒木崎牧場(3) 1月：大原牧場(4)

ビンズイ *Anthus hodgsoni*

12月, 1月：学校周辺や牧場周辺の松林でよく見られた。

ムネアカタヒバリ *Anthus cervinus* (写真9)

12月：荒木崎牧場(3 タヒバリの群れに混じり, 1羽は夏羽) 1月：荒木崎牧場(2)

タヒバリ *Anthus spinoletta*

12月, 1月：荒木崎牧場や大原牧場で群れが見られた(10+)。

ヒヨドリ科 Family Pycnonotidae

ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*

12月, 1月：集落内の屋敷林に比較的多かった。

モズ科 Family Laniidae

モズ *Lanius bucephalus*

12月：集落周辺の畑(1)

レンジャク科 Family Bombycillidae

キレンジャク *Bombycilla garrulus* (写真10)

1月：荒木崎牧場(2 ヒレンジャクと混群)

ヒレンジャク *Bombycilla japonica* (写真10)

1月：荒木崎牧場(3)

ツグミ科 Family Turdidae

ノゴマ *Luscinia calliope* (写真11)

12月：集落近くの藪(2)

ジョウビタキ *Phoenicurus auroreus*

12月, 1月：集落内や牧場などで見られた。

イソヒヨドリ *Monticola solitarius* (写真12)

12月, 1月：海岸部や牧場などでよく見られた。

シロハラ *Turdus pallidus*

12月, 1月：集落内の屋敷林や畑周辺で見られた。

ツグミ *Turdus naumanni*

12月：荒木崎牧場(ツグミ *T. n. eunomus* 6, ハチジョウツグミ *T. n. naumanni* 1)

1月：荒木崎牧場(ツグミ *T. n. eunomus* 1)

ウグイス科 Family Sylviidae

ウグイス *Cettia diphone*

12月, 1月：平地から山地まで多く生息していた。

キマユムシクイ *Phylloscopus inornatus*

12月：村役場出張所前の広場(3 メジロの群れに追随)

セッカ *Cisticola juncidis*

1月：大原牧場(1)

メジロ科 Family Zosteropidae

メジロ *Zosterops japonica*

12月, 1月：12月は集落周辺で群れ(10+)が見られたが, 1月は少なかった。

ホオジロ科 Family Emberizidae

ホオジロ *Emberiza cioides*

1月：イマキラ岳山頂のハチジョウススキの草むら(4)

アオジ *Emberiza spodocephala*

12月, 1月：平地から山地まで多く生息していた。

カラス科 Family Corvidae

ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos*

12月, 1月：海岸部, 集落内, 牧場などでよく見られた。

(2) 冬期における鳥類相

宝島の鳥類相については姉崎（1999）によってまとめられているが、冬期（12～2月）における調査・観察は非常に少なく、1971年12月・1997年1月（鹿児島県1987）および1989年12月28日～1990年1月5日（大沢・大沢 私信）の記録があるにすぎない。2月においては皆無である。表-1は、姉崎（1999）より一部抜粋したものに、筆者の今回の記録を付加し、宝島で12月～1月に記録されている全種とその年間を通じた出現状況を示したものである。

これによると、12月～1月の出現種は、過去の記録29種、今回新たに記録されたもの21種、計50種になる。これは宝島で年間を通して記録されている全種数（141種）の約35%にあたる。なお、過去に記録されているもののうち、ヨシゴイ、コガモ、トラツグミ、ミヤマホオジロ、イカル計5種は今回の調査では確認できなかった。

今回の出現種のうち、カンムリカイツブリ、ウミウ、カルガモ、ホシハジロ、ハイタカ、ノスリ、チョウゲンボウ、タゲリ、ハマシギ、ヤマシギ、ハクセキレイ、ビンズイ、タヒバリ、キレンジャク、ヒレンジャク、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、アオジは、鹿児島県本土でも冬鳥（カルガモには留鳥もいる）として比較的普通に生息している。トカラ列島では、カンムリカイツブリ、ホシハジロの記録は少なく、過去に中之島で1回ずつ記録されているだけで（鹿児島大学野鳥研究会1996）、宝島では両種とも初記録である。

アオサギ、トビ、キジバト、ヒバリ、モズ、ウグイス、セッカ、ホオジロは県本土では留鳥として周年生息しているが、宝島においては月ごとの出現状況からして秋冬期に飛来し、少数は冬鳥として留まるものと思われる。モズ、ウグイス、セッカは中之島ほかいくつかの島々で繁殖が確認されているが、宝島では類似の生息環境があるにもかかわらず非繁殖期だけ出現しているのは興味深い。サンバは県本土では夏鳥あるいは旅鳥であるが、宝島では南西諸島の他の島々と同様に毎年越冬しているものと思われる（島民の方の情報による）。

メダイチドリ、ムナグロ、キョウジョシギは、シロチドリの群れに混じり行動を共にしていた。県本土ではシロチドリ以外は旅鳥（まれに越冬）であるが、奄美諸島では少数がほぼ定期的に越冬しているので、生息に適した環境のある宝島でもその可能性がある。なお、シロチドリはトカラ列島の中では宝島だけで繁殖している可能性が高いとされる（姉崎1999）。

マミジロタヒバリ、ムネアカタヒバリ、ノゴマ、キマユムシクイは、宝島における冬期の記録としては今回が初めてである。これらは本県では主に数少ない旅鳥とされるが、マミジロタヒバリ、ムネアカタヒバリは県本土や奄美大島で、ノゴマ、キマユムシクイは中之島と奄美大島でそれぞれ少数の越冬例が知られている（奄美野鳥の会1997、山元1998）。こうした状況からみて、これらは一時的な飛来ではなく、宝島で越冬する可能性が高い。なお、キマユムシクイは宝島では初記録である。

クロサギ、ミサゴ、シロチドリ、カラスバト、ヒヨドリ、イソヒヨドリ、メジロ、ハシブトガラスは冬期に限らずほぼ周年出現している。これらは宝島で留鳥として生息しているもの、および近辺の島々から飛来するものであろう。森岡（1990）によると、これらの種はいずれもトカラ列島で繁殖またはその可能性があるとして、宝島では今のところ、クロサギ（迫1986）、メジ

表一 宝島における12月～1月の出現種とその年間を通じた出現状況

姉崎(1999)より一部抜粋・加筆

種名	学名	月													
		7	8	9*	10	11	12	1	2*	3	4	5	6		
カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>							●							
ウミウ	<i>Phalacrocorax capillatus</i>					○		●			○	○	○		
ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>						○								
クロサギ	<i>Egretta sacra</i>	○	○			○	●	●			○	○	○	○	○
アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○	○		○			●			○	○	○	○	○
カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha</i>							●			○				
コガモ	<i>A. crecca</i>						○				○				
ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>										●				
ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	○	○		○	○	●	●			○	○	○		
トビ	<i>Milvus migrans</i>							●			○	○	○		
ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	○	○			○	●				○				
ノスリ	<i>Buteo buteo</i>					○	○	●			○				
サシバ	<i>Butastur indicus</i>				○	○	●	●			○	○	○		
ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>				○	○	●	○							
チョウゲンボウ	<i>F. tinnunculus</i>				○	○	●	●			○				
シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	○	○			○	●	●			○	○	○	○	○
メダイチドリ	<i>C. mongolus</i>				○		●	●			○	○			
ムナグロ	<i>Pluvialis fulva</i>		○		○	○	●	●			○	○	○		
タゲリ	<i>Vanellus vanellus</i>							●			○				
キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>	○			○	○	●	●			○	○			
ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>					○		●			○	○			
イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	○	○			○		●			○	○	○		
ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>				○	○	●				○				
カラスバト	<i>Columba janthina</i>	○	○			○	●				○	○	○	○	○
キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>					○	●	●			○	○	○		
ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>					○	●	●			○	○			
ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>				○	○	●	●			○	○	○		
マミジロタヒバリ	<i>Anthus novaeseelandiae</i>						●	●			○	○	○		
ピンズイ	<i>A. hodgsoni</i>					○	●	●			○	○	○		
ムネアカタヒバリ	<i>A. cervinus</i>						●	●			○	○	○		
タヒバリ	<i>A. spinoletta</i>					○	●	●			○	○	○		
ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○				●	●			○	○	○		
モズ	<i>Lanius bucephalus</i>						●				○				
キレンジャク	<i>Bombycilla garrulus</i>							●			○				
ヒレンジャク	<i>B. japonica</i>							●			○	○			
ノゴマ	<i>Luscinia calliope</i>							●				○			
ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureoreus</i>					○	●	●			○				
イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	○	○		○	○	●	●			○	○	○		
トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>						○								
シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>						●	●			○	○			
ツグミ	<i>T. naumanni</i>						●	●			○				
ウグイス	<i>Cettia diphone</i>					○	●	●			○	○			
キマユムシクイ	<i>Phylloscopus inornatus</i>						●								
セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>							●				○			
メジロ	<i>Zosterops japonica</i>	○	○		○	○	●	●			○	○	○	○	○
ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>							●			○				
ミヤマホオジロ	<i>E. elegans</i>					○	○				○				
アオジ	<i>E. spodocephala</i>						●	●			○	○	○		
イカル	<i>Eophona personata</i>							○					○		
ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○		○	○	●	●			○	○	○	○	○

合計 20科 50種

○過去に記録があるもの ●過去及び今回記録されたもの ●今回新たに記録されたもの

※ 9月, 2月は未調査により記録なし

ロ (小倉 私信), ハシブトガラス (姉崎 1999) の 3 種の繁殖が確認されている。ほかに, ほぼ周年出現しているものにイソシギがいるが, まだ本県での確実な繁殖記録はない。

トカラ列島の鳥類に関しては, しばしばメジロ, ヒヨドリ, ウグイスなどの亜種が問題になる。この調査期間中に筆者が目撃したメジロは胸から脇腹にかけて褐色味があり, 県本土産の亜種メジロ *Z. j. japonica* あるいはそれに近い亜種であり, 奄美諸島に生息している亜種リュウキュウメジロ *Z. j. loochoensis* とは異なっていた。また, ヒヨドリについては奄美産の亜種アマミヒヨドリ *H. a. ogawae* より体色が淡く, 県本土産の亜種 *H. a. amaurotis* もしくはそれに近い亜種と思われる。ウグイスについては筆者は亜種の識別ができないので不明である。

おわりに

筆者は調査の空白期間を埋めるために初めて宝島を訪れたのであるが, この時期の渡航は海の状態が悪く確かに困難を伴う。こういうこともあり, 宝島での冬期における鳥類調査は, トカラ列島の他の島々同様, ほとんどなされていない。わずか 8 日間であったが, 今回の出現種 45 種のうち 21 種は冬期においては初めて確認された。カンムリカイツブリ, ホシハジロ, キマユムシクイの 3 種は年間通して初記録である。今後調査の機会が増えればこのような記録はさらに増すであろう。トカラ列島の鳥類については亜種や繁殖鳥など不明な点も残されている。この報告が, 宝島の鳥類について関心を高めるとともに, その解明の一助になれば幸いである。

謝 辞

本調査を行うにあたり姉崎 悟氏には宝島産鳥類に関する生息状況や文献等についての詳細な情報を提供していただいた。また, 大沢夕志・啓子の両氏および小倉 豪氏には数少ない貴重な未発表記録を提供していただいた。これらは, 現地調査ならびにそのまとめに不可欠なものとなった。ここに厚く感謝申し上げる。

引用・参考文献

- 姉崎 悟. 1999. トカラ列島宝島の鳥類. STRIX Vol. 17, pp.43-52. 日本野鳥の会.
奄美野鳥の会. 1997. 図鑑 奄美の野鳥.
鹿児島大学野鳥研究会. 1996. 南西諸島トカラ列島における鳥相. WWF Japan 1995 年度南西諸島自然保護特別事業報告書.
鹿児島県. 1987. 鹿児島県の野鳥.
森岡弘之. 1990. トカラ列島の繁殖鳥類とその起源. 国立科学博物館専報第 23 号: 151-166.
迫 静夫. 1986. 宝島の鳥類. 宝島自然環境調査報告書 (2-2): 7-24. 鹿児島県.
迫 静夫. 1991. トカラ列島の鳥相. トカラ列島学術調査報告: 118-166. 鹿児島県.
所崎 聡・山元幸夫. 1999. 鹿児島県産鳥類リスト. 鹿児島県立博物館研究報告第 18 号: 21-42.
山元幸夫. 1998. トカラ列島中之島における冬期の鳥類調査 (2). 鹿児島県立博物館研究報告第 17 号, 34-38.

宝島で撮影された鳥類（撮影：1999年12月、2000年1月）



写真1 カンムリカイツブリ
1月12日：赤木崎海岸



写真2 ホシハジロ
1月13日：赤木崎海岸



写真3 ノスリ
1月12日：荒木崎牧場



写真4 サシバ
12月16日：集落内



写真5 シロチドリ
12月14日：赤木崎海岸



写真6 ムナグロ
12月15日：赤木崎海岸



写真7 タゲリ
12月15日：赤木崎海岸



写真8 マミジロタヒバリ
12月15日：荒木崎牧場



写真9 ムネアカタヒバリ
12月15日：荒木崎牧場



写真10 レンジャク類
1月14日：荒木崎牧場



写真11 ノゴマ
12月16日：集落内



写真12 イソヒヨドリ
1月13日：宝島港